神戸女学院大学
心理学部　心理学科
精神保健福祉士養成課程　ニュースレター

第1号

実習医療機関より、就職ガイダンスを開催いただきました。

4回生のソーシャルワーク実習でお世話になっているハートランドしぎさん（奈良県）の職員の方より、精神保健福祉士の実務や具体的な就職に関するお話を伺いました。当日は精神保健福祉士養成課程の4回生9名、3回生1名が参加しました。

精神保健福祉士が所属している部署をメインにご紹介いただきました。発達障害や認知症などの専門外来や精神科スーパー救急病棟などがあり幅広い年齢層や症状の方を対象にしておられることや対象者ごとの支援の様子をお伺いし、病院で働く精神保健福祉士が多様な関わりをしていることや病院内での役割について理解することができました。また、多職種連携についてのお話では、精神保健福祉士の価値や視点に基づいた具体的なアプローチについてお聞きし、授業で学んだ理論が実践でどのように生かされているのかを知る貴重な機会となりました。

参加した4回生の感想

- 多職種連携の難しさについて実体験を踏まえて話していただきました。お話の中で看護師さんとワーカーは「失敗」の捉え方が違うからこそぶつかることが多いと教えて下さいました。看護師さんやお医者さんは患者さんの身体を一番に考えられているからこそ「失敗は許されない」という考え方をされますが、ワーカーは本人の意見を尊重することが重要だとされているからこそ「失敗しても次がある！」という考え方をされます。「失敗」の捉え方が違うからこそぶつかることは多いですが、多職種連携をしていく中で患者さんの情報を誰よりも知ること、そしてその情報をもとに提案をしていくことが大切なのだと学ぶことができました。

- 精神科救急急性期病棟についてのお話が非常に印象に残りました。毎日のように患者さんが入退院をされており、他の病棟に比べてせわしなく、大変だとお聞きし、スーパー救急の雰囲気を感じ取ることができました。精神科救急急性期病棟では「長期入院を私たちが阻止します！」とスローガンが掲げられていました。また、月毎に退院率を60%クリアするという目標が明確に立てられており、患者さんが一日でも早く地域で暮らせるよう取り組まれていることが分かりました。

- なかなか児童の精神科というものがない中、ハートランドしぎさんでは、児童の心の病気について治療やセラピーを行っていると聞いてとても興味深かったです。また、子どものケアはもちろん親御さんへのケアも欠かせないという話を聞いてどちらにもアプローチをすることは支援をしていくうえで重要なことだなと考えられました。

- 精神保健福祉士の勉強をする前は、ソーシャルワーカーは相談に対してアドバイスして解決しなければならないと思っていました。しかし、今回の話や実習を通して、利用者の方はアドバイスを求めているというより話を聞いてほしいという方が多いということを知りました。また、傾聴することで支援を行う上での重要な問題が見えてきたり、会話の中に本人の言葉の裏を知ることにもつながり傾聴は大切であると感じました。

- 年代も職場も異なる複数名の精神保健福祉士の方々のお話を伺うことできたのはとても貴重な経験になりました。また、採用をご担当されている方のお話も伺うことができ、お仕事の内容だけでなく福利厚生や採用についても伺うことができて良かったです。ありがとうございました。

遠方にも関わらず、朝早くからご来校いただきました、高幣様、澤井様、古山様、田中様に心より感謝申し上げます。

神戸女学院大学
心理学部　心理学科
精神保健福祉士養成課程　ニュースレター

第2号

心理学部OG勉強会を開催しました
テーマ「多職種：他機関連携について」

心理学部　精神保健福祉士養成課程ではこれまで24期、総勢180名以上の卒業生を送り出しています。6月22日、OGと在校生（精神保健福祉士養成課程3・4回生）を対象にした勉強会を学内で開催しました。

このたび、精神科領域との連携において経験豊富な介護支援専門員の青木幾久子先生をお招きし、ご講演いただきました。

地域包括支援センターの役割や介護支援専門員の職務内容などについてお話を伺い、連携がうまくいった事例といかなかった事例をもとに連携における課題についてグループで意見交換しました。

参加者の感想

・ケアマネージャーさんの職務内容や多職種連携について、有益なお話を聞くことができただけでなく、うまくいったケースといかなかったケースなど、実際に起こった事例に関するお話を聞くことができて、とても勉強になりました。

・多職種連携にあたっては、連携先の専門性を知ることが大切だと思いました。今回、それぞれの職種の方が、何をどこまでされているのかを詳しく知ることができ、具体的な仕事内容について想像することができました。

・日頃の仕事でケアマネージャーさんと連携することが多く、仕事内容について教えて頂くことができて勉強になりました。「何か起こるまで待つ」こと、もやもやしていたので救われました。

・うまくいかないケースについての課題点などを詳しく知ることができてよかったです。多職種の課題について学ぶ機会が初めてだったので改めて考える機会となりました。

・多職種連携の実際のケースについてお話を聞くことができたことや、精神保健福祉士の養成課程の先輩方のお話を聞くことができたのが嬉しかったです。

青木先生、参加された皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

神戸女学院大学
心理学部　心理学科
精神保健福祉士養成課程　ニュースレター

第3号

特例子会社にて見学実習をさせていただきました

3年生の授業（ソーシャルワーク演習）において、ヤンマーシンビオシス株式会社（特例子会社）へ見学に行かせていただきました。

健康・サポート室の精神保健福祉士 川島様より障害者雇用の現状や社内の支援体制などについてお話しを伺いました。社内見学では、働かれている方々から業務内容、仕事をする上での工夫や、やりがいなどをお聞かせいただきました。障害者雇用や支援についての理解を深めるとともに、精神保健福祉士としての価値観や倫理観についても学ぶ貴重な機会となりました。

参加した3年生の感想

・川島様のお話で特に印象に残ったのは、「多様な人と出会い、様々な経験をして、自分の価値観や倫理観を知る」と「苦労や問題をその人自身で解決していく過程に関わる」という言葉です。精神保健福祉士になることができた場合には、クライエントや他職種の方との関わりを通して、自分自身の性格や特性を知るための自己覚知や専門職としての考え方の見直しを行うべきだと思いました。また、クライエントの意志や自立を妨げない距離感と配慮の重要性についても学びました。

・見学で印象的だったのは、私たち学生にその部門の作業や仕事内容について説明してくださった方の表情でした。皆様とても笑顔で、説明されている時や我々学生の質問に答えてくださっている時の様子などからご自身の仕事に誇りをもっていらっしゃると感じました。

・今回3人の社員さんのお話を聞きましたが、その場では障害を持たれていることが分かりませんでした。障害があったとしても、その人が出来ることは何かを配慮して、本人がもつ力を十分に発揮できるような環境づくりの必要性を感じました。

・質疑応答の場面で、どのようにサポートしているのかについては、正解はないので明確に答えられないとお聞きし、サポートするということは、型にはまったものではなく、課題を抱えている人それぞれに方法があって、たくさん悩みながら行うことなのだと分かりました。

・企業は一定数の障害者を雇わなければならない障害者雇用制度がありますが、障害が一括りに捉えられていたり、障害に対して誤解や偏見を持ち、障害者を雇うことに積極的ではない企業も多い現状があることを知りました。精神保健福祉士として正しい情報を伝えてその誤解や偏見を軽減・除去することは大切な役割のように感じました。

ヤンマーシンビオシス株式会社の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

神戸女学院大学
心理学部　心理学科
精神保健福祉士養成課程　ニュースレター

第4号

榎坂病院にて見学実習をさせていただきました

3回生の授業（ソーシャルワーク実習指導Ⅰ）において、大阪府吹田市にある榎坂病院にて見学実習をさせていただきました。

ケースワーカーの服部先生にご対応いただき、2グループに分かれて病棟内やデイケアを見学させていただきました。病院とデイケアで働く精神保健福祉士の業務内容や精神保健福祉士として働く上で大切にされていることなどを細やかに教えていただきました。

参加した3回生の感想

・特に印象深かったのは、私が目指している精神保健福祉士の具体的な仕事内容を直接お伺いすることができた点です。これまで授業で精神保健福祉士の定義や役割について学んできましたが、実際に現場でどのような業務が行われているのかについては明確なイメージを持てていませんでした。今回、現役の精神保健福祉士さんから具体的な業務内容や日々の取り組みを聞くことができたことで、仕事の全体像をより深く理解することができました。

・榎坂病院の見学に参加して、医療現場の実際の姿を見ることができました。精神科病院で入院することについて、私の中では身体拘束などネガティブな側面に注目していたのですが、実際に病院で働いている方からお話を聞くことができて、建物の構造や患者さんが自由に過ごせるように工夫されている点を知り、そのイメージが大きく変わりました。

・院内のホールが想像よりも広くて何より明るいと感じました。中庭を囲んだ構造であるため、外出が難しい患者さんでも天気や外の空気や景色を感じやすくとても素敵な工夫がされているなと感じました。

・特に、「患者さんと関わる時、病気や疾患に囚われず、一人一人と向き合う力をつける」という言葉が印象的でした。同じ疾患や病気を抱える方々を一括りにせず、個人の性格や特徴、強みを見つけ出し、一人の人間として向き合う力を身に付ける必要があると学びました。

・榎坂病院が現在抱える課題として、退院可能な高齢患者が退院を望まないというケースがあると聞きました。病院は食事や医療ケアも整っているし、安全で快適な環境であるため、患者がその生活に満足して退院の意欲がなかったり、高齢者の場合、特に退院後の生活に対する不安や孤立への恐れが強いと思うので、難しい課題のように思いました。

・デイケアの目的や活動内容のお話から、利用者さんの意見や考えを尊重する姿勢も伝わりました。利用者さんが主体となる活動やプログラムを行うことで、自発性や自己表現力が身に付くだけではなく、交友関係の幅を広げられます。デイケアでの活動を通して、日々の楽しみや生きがいを見つけ、服部さんもおっしゃっていた自信や活力を取り戻せることが、デイケアの必要性や魅力ではないかと考えました。

お忙しい中、貴重なお話と見学のお時間を設けていただき、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

神戸女学院大学
心理学部　心理学科
精神保健福祉士養成課程　ニュースレター

第5号

3年生の授業（ソーシャルワーク実習指導Ⅰ）において、神戸市長田区にあるふたば学舎で11/9（土）に行われたハートフェスタ2024に参加させていただきました。シンポジウム『ヘルパーさんあれこれ～私たちの介護を考える～』において、精神障害者の当事者や介護されている方のお話を聞かせていただきました。

・お話を聞いて、病院の長期入院や住居問題、介護の人材不足など様々な理由で障害を持つ方が実際に地域で生活することはなかなか難しい現実を知りました。障害者の地域移行を可能にするためには、このお話会のような機会を増やして多くの人が参加し、地域全体が障害への理解を深めることが重要だと思いました。

・介護についてのお話を聞き、介護者や支援者の姿勢についても学ぶことができました。車の運転に例えられた「運転のハンドルを握るのはピア（その人）自身であり、支援者はあくまでも同乗者」という考え方や、質疑応答の時間内で出た意見であったヘルパーなどの支援者の価値観の押し付けや、意図せずに利用者の行動を制限していることがよくあることなどを知ることができました。

今回のハートフェスタ　シンポジウムでは普段の学校生活を送る中では聞くことできない、とても貴重なお話を聞くことができました。将来自分がなるであろう支援者の立場だけでなく、支援や介護を受ける側について理解し、その立場に立って考えられる支援者になりたいと思いました。

同じくふたば学舎で11/30（土）～12/1（日）行われた日本病院・地域精神医学会総会兵庫大会に学生ボランティアとして参加させていただきました。学会運営をお手伝いさせていただくと共に、ワークショップ『オープンリカバリーカレッジ＠KOBE～Co-production（共同創造）について学んで体験しよう ちゃうちゃうでええやん！』やシンポジウムなどに参加させていただきました。

・リカバリーについて授業で学んでいましたが、リカバリーをするとはどういうことなのか、講義を通して具体的なプロセスや方法について深く理解することができました。リカバリーカレッジの魅力は、意見交換することに対して気軽に取り組めることだと思います。実際に参加してみて、自分の発言に対して不安を感じない環境は、安心感や心のゆとりを与えてくれるため、癒しを感じたり、リフレッシュができるのだと思いました。そして、そうした環境が相手の意見や思いを素直に受け入れる気持ちに繋がるのだと感じました。

・今回の学外実習では、多くの方々と出会い、直接お話を伺いながら意見を交換する中で、自分の視野が広がったような気がしました。

・家族のリカバリーを考えるワークショップでは家族支援についてお話を聞きました。講演中に出てきた「精神病がドアから入ると、会話は窓から逃げていく」という表現がまさにその通りだと感じ、病気を抱える本人だけでなく家族も辛くなり、コミュニケーションが減ってしまう現実を捉えていたので、印象に残ったのと、家族が心の余裕を持って積極的に会話をすることの重要性を再認識しました。精神障害を持つ本人への支援はもちろん重要ですが、その家族への支援ももっと注目されてほしいなと思いました。また、家族だけでなく、周囲の人々も理解を深め、支え合える環境が広がることで、誰もが安心して生きられる社会になると考えました。

神戸女学院大学
心理学部　心理学科
精神保健福祉士養成課程　ニュースレター

第6号

小阪病院にて見学実習をさせていただきました

3回生の授業（ソーシャルワーク実習指導Ⅰ）において、今年度も小阪病院にて見学実習をさせていただきました。

病院に加え、デイケアや生活訓練・就労定着支援など法人内の関連施設も見学させていただき、それぞれの施設の特徴や事業内容、精神保健福祉士の関わりなどについても詳しく教えていただきました。

参加した3回生の感想

・小阪病院を見学して、患者さんに寄り添った環境づくりや安全への配慮、細かな対応が強く印象に残りました。例えば、建物の工夫として、病院内がガラス張りの設計で開放感があり、患者さんが安心して過ごせる空間になっていたことです。他にも、認知症病棟では掃除のしやすさからクッション性のあるタイルが使用されていたり、急性期病棟では自販機に缶に入った飲み物は販売せず、紙パックの飲み物のみが提供されているなど、患者さんの行動を制限せず自由に過ごせる環境を作るため、細かな配慮が行き届いている点が印象的でした。

・アプレンドとフォレストを見学させていただいた際、施設の見た目がシンプルだったことから、利用者さんがあまり抵抗感なく利用できると感じました。特に印象に残ったのは、壁に貼られていた利用者さんからのメッセージカードです。施設に通い出してから変わったというコメントなど、生き生きとした素敵なコメントが沢山あり、私まで嬉しい気持ちになりました。ソーシャルワーカーを含む支援職は大変で気を遣う場面が多いお仕事かもしれません。しかし、人が自信をもって前向きに生きられるようになるためのサポートや手助けができるやりがいのある職業だなと、改めて感じました。

・設計だけでなく、言葉にも気をつけているそうで、例えば「作業」という言葉は強制的な感じがするので、「活動」という言葉を使っていることを聞き、言葉も大切にされていることがわかりました。

・特に印象に残ったのは、病棟内に患者さんが制作した作品が数多く掲示されていたことです。これらの作品から、病院の職員さんたちが患者さん一人ひとりの気持ちや表現を尊重し、寄り添おうとする姿勢が伝わってきました。加えて、作品が飾られることで、患者さんは自信や達成感を得られるのではないかと感じました。

お忙しい中、貴重なお話と見学のお時間を設けていただき、心よりお礼申し上げます。

神戸女学院大学
心理学部　心理学科
精神保健福祉士養成課程　ニュースレター

第7号

ソーシャルワーク実習
実習報告会を開催しました

12月14日（土）、4回生 8名によるソーシャルワーク実習 実習報告会が行われ、実習指導者の先生方や多くのOGの方々にもご参加いただきました。報告会では、4回生が実習生として多くの気づきや深い学びが得られたことが伝わってきました。報告会の合間に開催された交流会では、和やかな雰囲気のもと、在校生がOGに実習や進路について相談するなど積極的に交流が図られていました。これからもこの繋がりを大切にしてもらいたいと思います。

4回生の実習発表後は、
OGをゲスト講師として
お招きしました。

森田さん（22期生　和歌山県 田辺保健所）
渕脇さん（12期生　小阪病院 ソーシャルワーク課）

お2人からは、お仕事の業務内容、やりがい、在学生へのメッセージなどをお話しいただきました。在校生にとって、将来精神保健福祉士として働く上での指針ともなるお話を伺える貴重な機会となりました。

4回生への質疑応答（一部ご紹介）

Q1) 長時間の病棟実習において患者さんと関わる際に意識していたことや学んだことがあれば教えていただきたい。

A1)妄想に対してどのようにリアクションすればよいのか、どこまで踏み込んでいいのかについて不安があった。指導者さんに相談し、しっかり話を聴くことを大切にするようにした。また沈黙を恐れることなく患者さんと一緒にいる空間を大切にすることを学んだ。

Q2)実習を終えて精神障害者の方の捉え方がどのように変わったのか。

A2)自分の価値観を見直すきっかけとなった。利用者さんと支援者の立場は対等であり、むしろ利用者さんから学ばせていただいているという姿勢が大切だと思った。

A3）実習後は個別性が大切であると思うようになった。人それぞれ背景、家族関係、症状の重症度などが違う。支援する上でそれぞれの背景を大事にしなければいけないと思うようになった。

大変お忙しい中、ご参加くださいました実習指導者の先生方、OGのみなさまに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。